

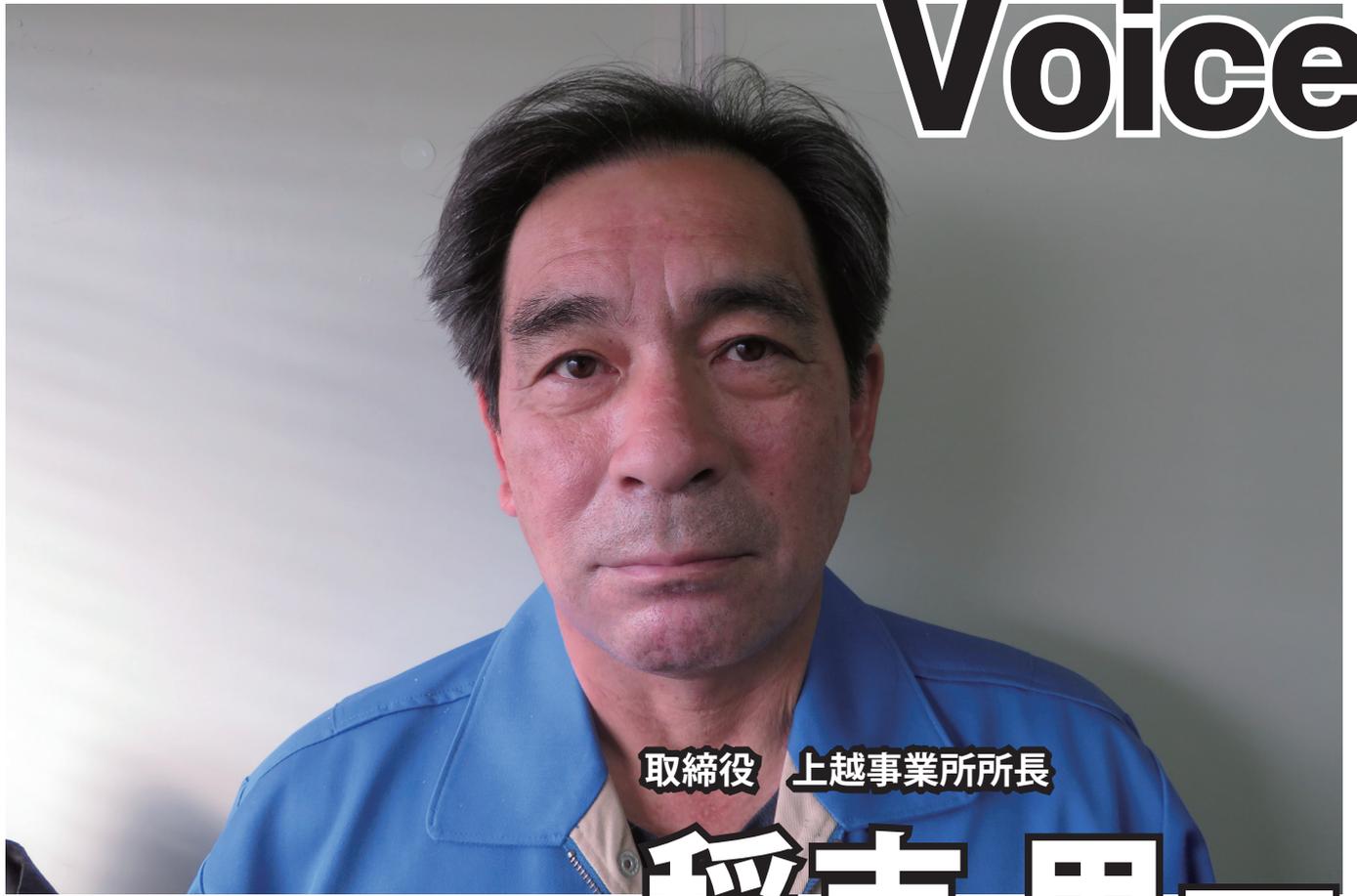


有限会社 吉田工業

vol.6

2023年6月15日発行





取締役 上越事業所所長

INAYOSHI KOUICHI 稲吉 甲一

2021年4月に同業他社から有限会社吉田工業へ活躍の場を移した稲吉甲一さん。長年にわたって培ってきた知識や経験を生かし、取締役と上越事業所所長を兼務して日々活躍しています。入社から現在までを振り返りながら、仕事における心がけや今後の目標について迫りました。

入社の経緯と印象に残っている現場を教えてください。

もともと同業他社で働いていた関係で、吉田工業とは20年来のお付き合いがありました。57歳になり、自分の年齢を考えたとき、「新しい仕事にチャレンジして、もう一段階成長したい」と強く思い、吉田社長に直談判したので。すると、快く迎え入れていただき、吉田工業の一員になりました。

入社してすぐに担当したのが、建設工事はじまったばかりの上越火力発電所です。吉田工業の社員の皆さんをはじめ、協力業者や下請け会社など、多くの方々との協力しながらこの現場に携われたことは、私にとって大きなやりがいであり、喜びでもありました。工期は非常に厳しいものでしたが、皆さんのご協力のおかげで無事に完成したときの感動は、今でも忘れられません。建設工事は1年ほどで終了し、私はその後も現場に残ってメンテナンス工事に関わっています。

この仕事をする上で、何が大切だと考えていますか。

怪我のない安全な現場づくりです。自分自身が率先して安全な作業をするのももちろん、些細な事柄でも「気をつけて」と声をか

けるように意識しています。その際に注意しているのは、決して高圧的な言い方をしないこと。よい雰囲気で現場が進むよう、言葉遣いや伝え方にも気を配っています。

この業界は、人と人とのつながりによって成り立っています。今日までを振り返ってみても、実にさまざまな出会いがあり、そのすべてが糧となっていて一つひとつの仕事に結びついてきました。そう考えると、これまで出会った皆さんに改めて感謝の気持ちを抱き



ます。周囲の人々に恵まれて、私は今日まで働き続けることができたのだと改めて実感しています。

円滑な人間関係を

維持する秘訣を

お聞かせください。

嘘をついたり、ごまかしたりせず、正直であることが一番ではないでしょうか。嘘やごまかしでその場を取り繕うことはできても、それはいつか破綻し、取り返しのつかない事態を招きます。正直さに勝るものではありません。

そして、コミュニケーションも大切です。笑顔がない事務所や現場は、どうしてもギクシャクとした雰囲気になってしまうもの。人と接するときには、なるべく笑顔を決やさないように意識しています。

最後に、今後の目標 をお願いします。

安全面や環境面から、原子力発電所や火力発電所については建設案件の減少が予想されています。その一方で、環境に優しいバイオマス発電所の案件は増えていくでしょう。時代が求めているものを見極め、変化を恐れずに対応していかなければなりません。「仕事を断らない」という吉田工業のモットーを貫き、受注拡大につなげていきたいと考えています。

個人的には、健康に気をつけて1年でも多く皆さんと一緒に仕事をしたいと思っています。以前は毎日お酒を飲んでいましたが、今は週に一日休肝日を設けるようになりました。今後も健康維持に努めていくつもりです。そして、どんな仕事にも前向き

に挑戦する吉田工業の社風を生かし、一丸となって未来へ進んでいきたいと考えています。幅広い視野を持ち、力を合わせてがんばっていきましょう！今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

豊富な知識と経験に裏づけられた働きぶりで、吉田工業にとって必要不可欠な存在として力を発揮する稲吉さん。これからも躍進を続け、会社の発展に貢献していくに違いありません。今後の活躍に、より一層の期待が高まります。

企業情報

設立年：1987年5月12日

年商：12億円

※2023年3月時点

The “POWER” of the field.

現場のちから

大気汚染が叫ばれる昨今、松本さんはクリーンエネルギーを生み出す工事に関わっていらっしゃいます!「本格的な工事はこれから」と語る松本さんですが、徐々に増えていく仲間と強調し、精力的に作業に臨んでいるようです!

現場の概要

現場名称：秋田県大館市バイオマス発電所建設工事
住所：大館北秋容器株式会社敷地内
工事期間：2023年4月～11月

その名のとおり、新たにバイオマス発電所を建てる工事です。木材や廃材を燃料とした地球にやさしい発電方式で、時代の流れもあり、年々工事計画が増えています。実は私自身、今回初めてバイオマス建設に携わるため、仕事を通じてこれから多くのことを学びたいと思っています。



現場の特徴

新たな環境、新たなお客様とともに歩む半年間

現場があるのは東北地方の山の中。5月になってもまだ肌寒さを感じます。ただ、周囲に民家がひしめいているようなところではないので、騒音問題に関しては心配無用。工事にはとても適した環境と言えるでしょう。

そして、今回の建設工事は、三菱さんと初めてご一緒することになりました。「郷に入っては郷に従え」ではありませんが、三菱独自のルールに則って施工する必要があるため、新たな文化にも適応しつつ鋭意進めている最中です。



工事部
機械課長

まつもと あつし
松本厚さん



皆さんへメッセージ

まだ工事が始まったばかりということもあり、今のところ大きなトラブルは発生していません。しっかりとした安全対策の下、一致団結し、最後まで怪我なくものを壊さずに工事を進めていく所存です!

業務を遂行する上で気をつけていること 一歩間違えば取り返しのつかない事態を未然に防ぐ

タービン建屋とボイラー建屋の建設にあたって鉄骨建方工事がスタートしたのですが、高所作業には重々気をつけなければなりません。もちろん人の転落や滑落は絶対に防止すべきことですが、落下物にも最新の注意を払う必要があるでしょう。例えば、ボルトや工具などがその高さから落ちて人に当たれば、大怪我を負う可能性が高くなります。

したがって、業務中は常に下に人の有無を確認し、もしいたら必ず声をかけてから作業を行うことを徹底しています。

また、あちらこちらで重機が走っているので、巻き込み事故などにも要注意です。意識の外での不慮の事故も十分考えられるため、注意喚起と声かけを怠らず、全社をあげての事故予防に尽力しています。

うちの 新入社員を 紹介します!



吉田工業の新しい仲間となった須釜さんをご紹介します!
現場で働く姿とはうらはらに、休日はパソコンとにらめっこしているそう。
意外な趣味と、そこに隠された真の思いとは……?



工事部

すがま あいき
須釜 与揮さん

Message

若い人たちが早く会社に溶け込めるように、明るい雰囲気と丁寧な言葉遣いを心がけていきましょう!

誕生日 1974年2月24日
出身 福島県須賀川市
入社日 2023年2月1日

Q. 入社のかっけは?

現場での縁により、
新たな道へ!

石井さんから「うちに来ない?」と誘われたことがきっかけです。前職でも塗装工事の監督をしていたのですが、労働環境を変えたいと思い転職を考えていたところでした。ちょうどその頃、吉田工業に塗装工事が入り、塗装の監督を担える人材を探していたのだそうです。石井さんは、私が現在塗装現場で監督をしていることを知っていたため、声をかけてくれたのでした。

もっと聞いちゃえ!
プライベート編!



須釜さんに質問!
お仕事編!

Q. 前職はどんな お仕事でしたか?

外の空気を感ずる
現場が好き

塗装工事の会社で5年ほど働いていました。その前には2~3年除染の仕事をしていたのですが、そこで吉田工業の石井さんと知り合っています。除染の仕事の前は土木業に就いていました。気づけば長い間現場仕事ばかりしてきましたが、外で気持ちよく働ける点が気に入っています。

Q. 現在はどんな業務を 担当していますか?

引き続き、塗装現場の監督をしています。今は秋田県で発電所の建設工事を手がけています。

Q. 今後の目標

今年入社したばかりですので、まだ吉田工業になじんでいっているところ。今後は、皆さんがもっと楽に仕事ができるように、様々な工夫をして効率化していければと考えています。

Q. 自分の性格を 一言で表すと?

「のんびり」

基本的に何もしたくない性格!常にぐうたらしたいという思いがあります(笑)ですから、作業や仕事をどれだけ簡単にできるかを考えて、そのために効率化を図ることが得意です。

Q. 趣味を教えてください!

お弁当注文アプリを開発!
しかし思わぬ結末に……

パソコンでプログラムを作るのが好きなので、20年来の趣味となっており、家ではいつもパソコンを触っています。始めたきっかけはFX(外国為替証拠金取引)。取引の際には常に相場に目を光らせていなくてはならないのですが、仕事をしている間にも売買ができないかと考え、自分でプログラムを組むことを思いついたのです。

今年のGWには、吉田工業の皆さんがお弁当を注文する際に利用できるアプリを開発しました。アプリ内で好きなお弁当を選んで、注文ボタンを押すというシステムです。ただ、もともと朝に事務所へ寄った際にパッと紙に書いて注文する体制ができていたので、使った人からは「アプリでも紙でも、それほど手間は変わらない」という声が……。残念ですが、今後役に立つ場面が出てくることを期待しています!



新人時代の奮闘記

誰にでもある新人時代。先輩たちは、悩みや苦労をどのように乗り越えてきたのでしょうか。

現在活躍する正木さん、栗崎さんにも、苦労を重ねた時代がありました。

どんな経験をし、何を感じたのか。今だからこそ語れる、新人時代の経験談を伺いました！



▲新人時代の正木さん（約7年前）

復興部 復興部長

まさき ゆうま

正木 雄馬さん

Yuma Masaki

新人時代に苦労したこと

当時、東日本大震災により福島第一原子力発電所で発生した原子力事故に伴い、汚染された周辺地域の放射線を測定するという業務に従事しましたが、何もかも未経験であり、ゼロからのスタートでした。そのため、測定器の取り扱いや放射線の測り方等々について、弊社の先輩方や現場で詳しい方々

に質問し、勉強させていただく日々が続きました。当時、石井常務と初めて現場で仕事をしましたが、数日後には離れ離れになり、とても不安になったことを覚えています。しかし、それをきっかけに向上心と責任感が湧き、成長できたと振り返ります。

若手社員の皆さんへ

まずはとにかく行動を起こす

失敗を恐れず、とにかく率先して仕事に取り組んでほしいです。わからないことや、不安なことが度々あると、仕事は徐々につまらなくなります。できない理由を考える前に、できる方法を考える、何事も最善を尽くす社員になっていただきたいです。

その経験から得た教訓

会社は率先してチャレンジをして、努力する人を評価し、応援してくれます。ゼロからスタートした私でも、今は復興部長という立場を与えていただいています。若い皆さんは、今より更に、アグレッシブに！積極的に！行動してほしいと思います。

Akio Kurisaki

工事部 工事一課長

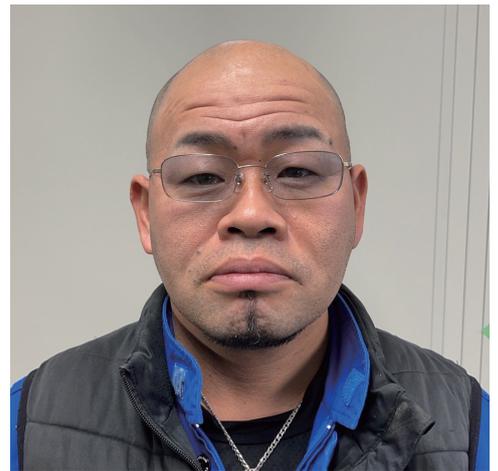
くりさき あきお

栗崎 秋夫さん

新人時代に苦労したこと

バリの成形を怠り、後戻り作業が発生してしまいました。モノを組み込む際、本来ならば、自分の指で触れて尖ったところがないように綺麗に成形する必要がありますのですが、その作業を省いてしまったため、後の工程で組み

込みが上手くいかなくなりました。小さいことだからと、そのひと手間を省いてしまうことで、あとで手痛いしっぺ返しが来るなど、身をもって体験しました。



若手社員の皆さんへ

小さなことでも着実に

自分では何気ないと思うこと、どんな些細なことでも、先輩に指示されたことは確実にを行うように意識しています。人間なので、日々の作業の中でどうしても見落としてしまうこともあります。1人より2人と、複数人で確認することでミス未然に防ぐことができます。その大切さは後輩たちにも伝えていきますし、これからもスムーズに作業を遂行できたらと思います。

その経験から得た教訓

矛盾と理不尽だらけですが、めげずに頑張ってください。その矛盾には様々な意図があるので、そこを理解し、負けないで取り組んでください。20年以上この仕事に携わっている私も、作業が完遂するまではいまだに緊張しますが、無事終わったときの達成感はひとしおです。皆さんにも、この気持ちを味わってもらえたら嬉しく思います。

